

取組別評価シート(平成26年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組1	循環型社会の形成
取組の目的	省資源、省エネルギーを推進するとともに、新エネルギーの有効利活用を促進し、自然環境の保全と環境負荷の少ない資源循環型社会を構築します。

取組に係る社会の動向・本市の現状(主な取組)

社会の動向	◎小型家電リサイクル法に基づき使用済製品からの有用金属の回収などの3Rの取組推進など、循環型社会の形成に向けた法整備や市民意識の高まりが進んでいる。一方、生活スタイルの多様化に対応したごみの回収方法や、ごみ排出抑制に繋がる工夫・啓発活動など、市民ニーズに対応した行政の取組が求められている。また、寿命を迎える太陽光パネルが今後大幅に増えてくることを踏まえて、国は平成30年度にリサイクル制度を導入する方針を決めた。
主な取組	◎ごみの減量化やリサイクルの推進を図るため、出前講座や市内で実施されるイベントへの出展を通じて、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進する啓発活動を積極的に実施するとともに、市民のライフスタイルの多様化に合わせ、資源ごみの拠点回収事業を推進している。また、「エコタウンふくろい」の実現に向け、県内トップクラスの奨励金制度や新エネルギー普及に向けた様々な導入支援を展開しており、新エネルギー機器の導入については、着実に推進が図られている。

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の 評価点
1	1人1日当たりの家庭ごみの排出量【g】	目標値	618	618	618	618	618	4
		実績値	646	632	602	593		
2	年間資源リサイクル率【%】	目標値	26.1	27.1	28.1	29.1	30.8	1
		実績値	22.4	20.3	20.4	19.1		
3	新エネルギー機器導入促進奨励金の交付件数【件】	目標値	2,950	3,300	3,650	4,000	4,300	4
		実績値	3,481	4,427	5,312	6,183		
4	生ごみ処理機等設置費補助金交付件数(累計)【台】	目標値	1,980	2,055	2,130	2,205	2,280	2
		実績値	1,979	2,028	2,098	2,160		
5	ISO14001・エコアクション21認証取得事業所数【箇所】	目標値	136	139	143	146	150	2
		実績値	134	123	129	130		
							評価結果の平均点	2.6

【評価点基準】

- 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている
 3: 目標は達成しているが、前年より落ちている
 2: 目標は達成していないが、前年より伸びている
 1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H26	備考欄
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎太陽光発電システムの導入については、県内トップクラスの奨励金制度に加え、セミナー開催や相談業務などきめ細かな導入支援により、住宅の新築や建て替え時に設置する市民が増えており、概ね想定どおりの成果が出ている。 ◎出前講座やイベントを通じて3R(リデュース、リユース、リサイクル)の啓発活動を推進した結果、家庭ごみの排出量の減少に繋がった。ただし、台風による樹木等の搬入が少なかったことも要因の一つと思われる。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	◎本市が進める再生可能エネルギー促進策は一定の効果が出ており、引き続き、奨励金制度を活用し、個人住宅等への導入を推進する必要がある。一方で、大規模な太陽光発電パネル設置による自然破壊や景観悪化が懸念されるため、自然環境等を保全する対策も必要である。 ◎地球温暖化がもたらす異常気象により、想定を超える自然災害が発生していることから、地球温暖化防止に向け、節電・省エネなどについて企業や市民等の環境意識の向上を図っていく必要がある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	1	◎国の固定価格買取制度の開始から3年が経過し、再生可能エネルギーへの転換が進んでいる。特に太陽光発電の設置が進んでいるが、今後は、太陽発電以外の風力、バイオマス、太陽熱、地熱などを活用していくことが求められている。 ◎地球温暖化による異常気象など地球規模での深刻な影響が出ていることから、CO2排出量の削減に向け、長期的視点に立ち継続的に環境にやさしい暮らしに転換する必要がある。
評価結果の平均値	2.3	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	環境基本計画推進事業	3	3	3
2	新エネルギー施策推進事業	3	3	4
3	バイオマス利活用推進事業	3	3	3
4	省エネルギー推進事業	4	3	3
5	環境教育推進事業	3	3	4
6	環境美化指導員・推進員設置事業	4	4	4
7	ごみの収集・運搬・処理事業	3	3	4
8	竹エネルギー活用推進事業	2	2	3
9	生ごみ処理機等設置費補助事業	3	3	3
10	古紙等資源集団回収自治会奨励金交付事業	4	3	4
11	資源ごみ回収自治会奨励交付金交付事業	3	4	4
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
評価結果の平均値		3.3	3.2	3.1
				3.5

取組の総合評価と今後の展開方向

取組の評価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.6	2.3	3.3	2.7

4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

<p>◎袋井市環境基本計画に基づき、ごみの減量化や再資源化等を推進する取組が計画的に進められており、ごみの排出量の減少や太陽光発電パネルの設置が進んでいる。資源リサイクル率(学校や自治会の古紙等集団回収)が上がらない要因として、民間企業の古紙回収ボックスの設置が増えたことが一因と推測される。</p> <p>◎省エネや節電に関する製品の普及など、市民生活や企業活動において環境への配慮が浸透しつつある中で、取組を幅広く展開していくことが求められている。</p>	H26 の評価	一部に改善を要する
--	--------------------	------------------

番号	取組の基本方針	H26	今後の展開方向
1	資源循環型社会の推進	→	生活スタイルの多様化に対応した資源ごみの拠点回収等を推進し、ゴミの排出抑制やリユース、リサイクルの普及・啓発を図るとともに、市民・企業等の協働による資源循環活動を推進していく。
2	環境保全意識の高揚	→	一般家庭での省エネ意識の高揚を推進するとともに、引き続き学校や公民館学級等における環境教育の充実を図り、次代を担う子どもたちや地域の人々への環境保全意識の高揚へと繋げていく。
3	地球環境の保全	→	奨励金制度や新エネルギー普及に向けた様々な導入支援を展開し、新エネルギー機器の導入を促進するとともに、地球温暖化防止に向けた節電・省エネへの取組を推進し、市民や企業等の環境意識の向上を図っていく。

◀ 展開方向 ▶ 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成26年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組2	快適な衛生環境の確保
取組の目的	市民や企業の環境保全への取組を推進し、自然環境・景観保全を図るとともに、悪臭、騒音や水質汚濁などの公害を防ぎ、快適な環境空間を確保します。

取組に係る社会の動向・本市の現状(主な取組)

社会の動向	◎中国で発生した「PM2.5」など新興国等における経済発展を優先した政策により、急速な生活環境の悪化が危惧されており、国際的に“経済発展と環境保全の両立”に関する意識が高まっている。国内においては、環境意識の高まりや事業所における環境関連技術の向上などにより、環境保全の取組が積極的に進められている一方で、市民生活に身近な騒音や臭気・不法投棄などの改善に向けた着実な取組が求められている。
主な取組	◎美しい地域の保全に向けて、誇れるふるさとの川づくりプロジェクト等を推進するとともに、公害苦情や不法投棄などを未然に防ぐため、定期的なパトロールの実施や改善指導など監視体制の強化を図った。悪臭対策としては、月1回抜き打ちで立入調査を実施するとともに、事業者に対して指導を実施した。河川美化の推進については、市民と行政とのパートナーシップの観点で、各地域の高齢化等の状況に応じた対応(公的支援の範囲拡大)を行い、持続的な運動となるように努めている。

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の 評価点
1	環境保全協定締結事業所数【事業所】	目標値	58	60	61	63	65	2
		実績値	56	56	56	57		
2	公害苦情件数【件】	目標値	431	386	340	295	250	3
		実績値	320	241	266	273		
3	環境美化運動の延べ参加者数【人】	目標値	38,008	38,456	38,904	39,352	39,800	1
		実績値	38,478	33,319	30,970	29,086		
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						

【評価点基準】

- 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている
 3: 目標は達成しているが、前年より落ちている
 2: 目標は達成していないが、前年より伸びている
 1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている

評価結果の平均点 **2.0**

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H26	備考欄
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	2	◎養豚事業者について、月1回の立入調査、養豚事業所から提出された悪臭対策改善計画書の進捗状況の把握や場内の管理状況について指導を実施し改善を促している。 ◎高齢化社会の進行により、河川の草刈りなど環境美化運動の持続性が危惧されている。目標の参加者数は減少しているが、市民と行政のパートナーシップの下で地域の環境に合わせた取組を進めることで、一定の効果を上げている。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	2	◎公害苦情や不法投棄などを未然に防ぐために、定期的なパトロールの実施など監視体制の強化や、市民や企業等への啓発活動を推進する必要がある。 ◎自治会におけるコミュニティ形成の機会が減少する傾向にある中、環境美化運動を実施することで地域全体の連帯感も増加する効果もある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	1	◎市民の快適な生活空間を確保するため、悪臭・騒音をはじめとする公害苦情や不法投棄に関する通報等については、継続的に対応する必要がある。 ◎自治会による環境美化活動の推進等により、引き続き、市民全体の環境保全意識を高めていく必要がある。
評価結果の平均値	1.7	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	誇れるふるさとの川づくりプロジェクト	4	4	4
2	バイオマス利活用推進事業	3	3	3
3	悪臭対策事業	4	4	4
4	環境保全推進事業	4	4	4
5	袋井市食品衛生協会補助金事業	4	3	4
6	美化運動推進事業	4	4	4
7	飼い犬管理事業	4	3	4
8	野良猫の去勢手術費及び不妊手術費補助事業	4	3	3
9	浸水便槽し尿収集料金等助成事業	3	3	3
10	不法投棄対策事業	3	3	4
11	ごみ集積所設置等補助事業	3	3	4
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
評価結果の平均値		3.6	3.6	3.4
				3.7

取組の総合評価と今後の展開方向

取組の評価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.0	1.7	3.6	2.4

4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

<p>◎公害苦情件数は不法投棄パトロールの強化等により減少している。一方、環境保全協定締結事業所数は、平成26年度に1事業所と締結したが目標を達成できていない。</p> <p>◎環境美化運動の延べ参加者数は、住民の高齢化等により減少傾向が続いており、効果的な対策(事業)がない状況にある。快適な衛生環境を確保していくためには、市民や地域、企業等との協働により、長期的な視点を持ち、継続的に推進していく必要がある。</p>	H26の評価	一部に改善を要する
--	--------	-----------

番号	取組の基本方針	H26	今後の展開方向
1	美しい地域の保全	→	河川の水質や水辺環境の改善に向けた「誇れるふるさとの川づくりプロジェクト」が平成27年度に終了予定であり、また、耕作放棄地を活用する「菜の花エコプロジェクト」についても5年が経過することから、今後のあり方を検討する必要がある。
2	生活環境の保全・改善	→	環境保全協定については、新規に操業開始する事業所や、中小事業所等について推進を図っていく。悪臭対策については、袋井市畜産環境対策協議会と連携し、養豚事業者に対して効果的な悪臭軽減対策を検討・実施させ悪臭基準値「13」を遵守するよう強く指導していく。
3	快適な環境の創造	→	高齢化等により環境美化運動のあり方が変化中、市民とのパートナーシップによる環境美化への取組を、持続可能な運動の視点で継続していく。また、飼い主の狂犬病予防注射接種及び飼い方の指導を徹底するなど、快適な環境の確保に努めていく。

◀ 展開方向 ▶ 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成26年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組3	川と海の水質改善
取組の目的	良好な水環境を将来の世代に引き継いでいくため、公共用水域の水質を保全します。

取組に係る社会の動向・本市の現状(主な取組)

社会の動向	<p>◎健康被害や公害防止のため、国において水質の目指すべき目標値が定められており、川や海の水質汚染の防止に向けた取組が実施されている。全国的に、下水道や合併処理浄化槽の普及とともに環境保全に対する市民意識が高まり、公共用水域の水質は大きく改善されてきている。</p> <p>◎少子高齢化や人口減少社会の到来、公共施設の維持・更新に要する費用負担など、将来を見据えた効果的、効率的な生活排水処理を進めることが求められている。</p>
主な取組	<p>◎水質汚濁対策として、公共下水道の整備を推進するとともに、下水道処理区域内における接続率の向上や単独浄化槽から合併処理浄化槽への付け替えの促進に努めているが、平成26年度末の本市の下水道普及率は42.3%と全国平均(77.0%)と県平均(61.0%)と比較してかなり低い状況にある。</p> <p>◎市民との協働により水質改善を図る取組として、平成23年度から実施の「誇れるふるさとの川づくりプロジェクト」を通じ、原野谷川の水質調査や汚濁状況の現状把握などを行うことで水辺環境の向上に努めている。</p>

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の評価点
1	汚水処理人口普及率【%】	目標値	67.8	69.0	70.2	71.4	72.6	2
		実績値	67.7	69.0	70.1	71.3		
2	太田川水質基準(年平均のBOD濃度)【mg/リットル】 上段:延久橋、下段:三ヶ野橋	目標値	0.6以下	0.6以下	0.6以下	0.6以下	0.6以下	4
		実績値	0.7	0.5以下	0.6	0.5以下	0.9以下	
3	原野谷川水質基準(年平均のBOD濃度)【mg/リットル】 上段:広愛大橋、下段:諸井橋	目標値	1.3以下	1.3以下	1.3以下	1.3以下	1.3以下	4
		実績値	1.7	1.3	1.8	0.9	1.5以下	
4		目標値	2.0	1.4	1.3	1.0		
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
<p>【評価点基準】</p> <p>4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている</p> <p>3: 目標は達成しているが、前年より落ちている</p> <p>2: 目標は達成していないが、前年より伸びている</p> <p>1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている</p>								<p>評価結果の平均点</p> <p>3.3</p>

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H26	備考欄
<p>有効性</p> <p>4. 想定どおりの成果</p> <p>3. 概ね想定どおりの成果</p> <p>2. 一定の成果</p> <p>1. 想定した成果なし</p>	3	<p>◎太田川、原野谷川とも目標とする水質基準を達成し、水質改善が図られており、概ね想定どおりの成果が出ている。</p> <p>◎人口集中地区などにおいて汚水処理を集中的に行うことは、環境保全に対して非常に有効性があるが、平成26年度末の本市の下水道普及率は42.3%、接続率は85.7%となっており、合併処理浄化槽も含めた汚水処理人口普及率は、全国や県の平均を下回っている。普及率を高めることで、生活環境の保全及び公共用水域の水質保全の向上に繋げていく必要がある。</p>
<p>必要性</p> <p>4. 極めて高まっている</p> <p>3. 高まっている</p> <p>2. 一定程度高まっている</p> <p>1. 高まっていない</p>	3	<p>◎川と海の水質改善を進めるためには、下水道処理区域における接続率を高めるとともに、下水道事業等の集合排水処理ができない区域における合併処理浄化槽設置の推進を図ることが重要な浄化手段であるため、今後も引き続き継続していく必要がある。</p> <p>ただし、生活排水等の汚水処理の推進にあたっては、少子高齢化や人口減少社会の到来、公共施設の維持・更新に要する費用負担などを踏まえ、将来を見据えた効果的、効率的な処理区域の見直しが求められる。</p>
<p>緊急性</p> <p>4. 極めて高まっている</p> <p>3. 高まっている</p> <p>2. 一定程度高まっている</p> <p>1. 高まっていない</p>	1	<p>◎水質改善を進めるためには、河川流域に暮らす人々の意識が大きな要素となる。現在実施している「誇れるふるさとの川づくりプロジェクト」などの取組を通じ、未来に向けて意識を変えるための地道な取組を継続していく必要がある。</p> <p>◎水質向上と公共下水道事業の経営力向上のため、接続可能区域における未接続世帯の接続を促進させていく必要がある。</p>
<p>評価結果の平均値</p>	2.3	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	誇れるふるさとの川づくりプロジェクト	4	4	4
2	合併処理浄化槽設置事業	3	3	3
3	農業集落排水事業	4	4	4
4	公共下水道接続推進事業	3	3	3
5	袋井浄化センター維持管理業務	4	4	4
6	アクアパークあさば維持管理業務	4	4	4
7	公共下水道事業(袋井処理区)	4	4	4
8	公共下水道事業(浅羽処理区)	4	4	4
9	管渠等維持管理費(マンホールポンプ長寿命化事業)	4	4	4
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
評価結果の平均値		3.8	3.8	3.8

取組の総合評価と今後の展開方向

取組の評価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
3.3	2.3	3.8	3.1

4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

<p>◎公共下水道の整備、下水道処理区域内における接続率の向上や単独浄化槽から合併処理浄化槽への付け替えについては、概ね順調に推進している。</p> <p>◎生活排水等の汚水処理の推進にあたっては、少子高齢化や人口減少社会の到来、公共施設の維持・更新に要する費用負担などを踏まえ、将来を見据えた効果的、効率的な処理区域の見直しを検討する必要がある。</p> <p>◎水質改善を推進するためには、河川流域に暮らす人々の意識が大きな要素となる。現在実施している「誇れるふるさとの川づくりプロジェクト」などの取組は、地味ではあるが、未来に向けて人々の意識を変えるためには一定の効果があるものとする。</p>		H26の評価	概ね順調
番号	取組の基本方針	H26	
1	汚水処理人口普及率の向上	↗	下水道の普及や合併処理浄化槽の設置は、水質保全に大きな役割を果たしていることから、効果的な取組計画に基づき、引き続き、着実に事業を推進していく。
2	広域的な水質浄化対策の推進	→	「誇れるふるさとの川づくりプロジェクト」の結果を通じて、より多くの市民にきれいな川への意識を高める活動を行っていく。また、「太田川の水をきれいにする会」(袋井市・磐田市・掛川市・森町で組織)などにより、河川流域全体を視野に入れた広域的な水質浄化対策も引き続き実施していく。
3	事業系排水の適正処理の推進	↗	環境保全協定の締結を進めるなど、工場・事業所等の排水処理施設の適正な維持管理等による汚濁負荷の低減を指導するとともに、地域の河川へ流れ出る農業の適正管理(ゴルフ場など)についても指導の徹底に努めていく。

◀ 展開方向 ▶ 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成26年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組4	浅羽海岸地域の保全
取組の目的	海岸侵食対策と沿岸地域の松枯れ対策などを推進し、美しい白砂青松の環境を保全します。

取組に係る社会の動向・本市の現状(主な取組)

社会の動向	<p>◎治水や利水及び発電などを目的としたダムが建設され、河川から海岸へ流出する土砂の絶対量が減少したことにより、海岸侵食が全国各地で起こっている。</p> <p>◎自然環境の保全も重要であるが、東日本大震災以降は津波被害の懸念を払拭するための対策が強く求められている。</p>
主な取組	<p>◎海岸侵食や防災林の松枯れなどの課題を解消するため、海岸清掃やサンドバイパス事業、グリーンウエーブ活動を推進することで環境保全に努めている。</p> <p>◎現在は、東日本大震災の教訓から南海トラフの巨大地震等に備え、命山や防潮堤の整備などの防災対策を最優先に取り組んでいる。</p>

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の評価点
1	浅羽海岸環境保全対策のボランティア参加者数【人】	目標値	2,640	2,730	2,820	2,910	3,000	2
		実績値	2,640	2,585	2,679	2,821		
2								
3								
4								
5		目標値						
		実績値						
<p>【評価点基準】</p> <p>4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている</p> <p>3: 目標は達成しているが、前年より落ちている</p> <p>2: 目標は達成していないが、前年より伸びている</p> <p>1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている</p>								<p>評価結果の平均点</p> <p>2.0</p>

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H26	備考欄
<p>有効性</p> <p>4. 想定どおりの成果</p> <p>3. 概ね想定どおりの成果</p> <p>2. 一定の成果</p> <p>1. 想定した成果なし</p>	3	<p>◎ボランティアの参加者数は、目標は達成していないが、地元自治会や周辺企業、各種団体などの協力により着実に増加しており、概ね想定どおりの成果が出ている。</p> <p>◎防風林については、グリーンウエーブ活動などボランティアの手で草刈りを行い、機能保全に努めており、地域資源に対する愛護意識の向上に極めて有効である。</p> <p>◎海岸保全についてもボランティアによる愛護活動を行っており、県が施工するサンドバイパスシステムによる海岸侵食対策に期待がかかる。</p>
<p>必要性</p> <p>4. 極めて高まっている</p> <p>3. 高まっている</p> <p>2. 一定程度高まっている</p> <p>1. 高まっていない</p>	4	<p>◎海岸は、防災、景観、憩いの場など多面的な機能を有する貴重な資源である。近隣住民はもとより多くの市民に恩恵をもたらす有益な存在であることから、愛護意識を大きく育てる取組として、草刈りやゴミ清掃などを定期的な催しとして継続実施していくことが必要である。</p> <p>◎防潮堤整備後も地域住民に親しまれる場所であり続けるためには、愛護意識を大きく育てる取組は重要である。</p>
<p>緊急性</p> <p>4. 極めて高まっている</p> <p>3. 高まっている</p> <p>2. 一定程度高まっている</p> <p>1. 高まっていない</p>	2	<p>◎海岸侵食や松枯れ被害は危機的な状況に直面しており放置すれば、近い将来、砂浜や海岸林は海岸防護等の機能を失うことになる。遠州灘沿岸保全対策促進期成同盟会により、サンドバイパスシステムの早期本格稼働を県に要望するとともに、引き続き市民等と市のパートナーシップにより、グリーンウエーブ活動や海岸愛護活動等の海岸保全活動を促進させていく必要がある。</p>
<p>評価結果の平均値</p>	3.0	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	河川・海岸愛護事業	3	3	3
2	松くい虫等防除事業	4	3	4
3	松林保全管理事業(グリーンウエーブ活動)	3	3	4
4	生活環境保全林ゴミ清掃事業(県有防災林)	4	4	4
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
評価結果の平均値		3.5	3.5	3.3
			3.3	3.8

取組の総合評価と今後の展開方向

取組の評価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.0	3.0	3.5	2.8

4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

◎防潮堤や命山の早期の完成に向け、県等と連携して万全な体制で取り組む必要がある。また、防潮堤や命山は平常時に市民の憩いの場となるよう公園の機能を有する施設として整備していく必要がある。 ◎海岸保全については、従来からグリーンウエーブ活動などボランティアの手で機能保全に努めており、愛護意識を育てる取組としても有効であるため、継続的に実施していく必要がある。		H26の評価	一部に改善を要する
番号	取組の基本方針	H26	
1	海岸地域全体の保全	↗	将来にわたり海岸地域を保全していくため、地域、NPOや企業とのパートナーシップを継続して実施し、保全活動参加者を増加させていく必要がある。
2	海岸侵食対策の推進	→	環境や漁業活動に配慮し、サンドバイパスシステムの早期の本格稼働などを県に要望していく。
3	松枯れ対策の推進	↗	松林の健全な保全のためには、自分たちの貴重な財産として自らが守っていくという意識を育んでいくことが大切である。 防潮堤整備を見据え、引き続き地域と協力して保全活動が実施できるように体制づくりに努めるとともに、県に松枯れ対策等の充実を求めていく必要がある。

≪ 展開方向 ≫ 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成26年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組5	憩いの空間の創出
取組の目的	みんなが憩える親しみのある、地域の特性を活かした特色ある空間を創出します。

取組に係る社会の動向・本市の現状(主な取組)

社会の動向	◎緑が持つ環境保全、レクリエーション、防災、景観形成といった様々な機能を十分に発揮させていくことが期待されている。 ◎人工的に作られた公園施設については、将来的に発生する維持管理費用や、更新に要する費用負担が財政を圧迫することが懸念されており、早い段階から長期的な視点で計画的に対応することが求められている。
主な取組	◎地域の特性を活かした特色ある空間の創出のため、(仮)三川公園、ふかみ野草ガーデン、みつかわ夢の丘公園等の整備を推進している。また、既存公園については公園施設長寿命化計画に基づき愛野公園や清水公園等の遊具更新や修繕を行った。 ◎自治会などによる公園等の愛護活動や花工場で生産した花苗を用いた花壇の植え替えなど、市民との協働で親しみのある憩いの空間の創出に努めている。

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の 評価点
1	都市公園、農村公園、寄付公園、コミュニティ広場等の市民一人当たりの面積【㎡】	目標値	28.3	29.5	29.7	29.9	30.6	3
		実績値	29.1	30.2	30.2	30.1		
2	公園愛護団体数【団体】	目標値	79	81	83	84	85	2
		実績値	75	77	79	80		
3	花いっぱいコンクール参加件数【件】	目標値	56	57	58	59	60	1
		実績値	44	40	47	45		
4	河川愛護(リバーフレンドシップ)の協定締結団体数【団体】	目標値	18	19	20	22	23	4
		実績値	18	26	43	46		
5		目標値						
		実績値						
							評価結果の平均点	2.5

【評価点基準】

- 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている
- 3: 目標は達成しているが、前年より落ちている
- 2: 目標は達成していないが、前年より伸びている
- 1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H26	備考欄
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎公園の一人当たり面積、河川愛護の協定締結団体数ともに目標を上回っており、概ね想定どおりの成果が出ている。 ◎自治会や市民団体等との協働により、公園や河川愛護活動事業、花の会運営事業、花工場運営事業などを推進することで、みんなで憩いの空間を大切に管理していく機運が醸成されている。 ◎身近な公園の整備にあつては、地域ならではの自然、歴史、文化の活用や災害時の避難場所として活用などの配慮がされている。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	2	◎公園等は、地域交流や市民の安らぎや憩いの場だけでなく、防災拠点や景観形成など多面的な機能を有しており、市民や地域の財産として、将来にわたり継承していく必要がある。愛護活動など市民等との協働事業、指定管理者制度の活用等により、適正に維持管理していくことが必要である。 ◎公園等の一人当たりの面積は、国の基準以上で、県内トップクラスであることから、今後は、公園や広場がない地域において、地域の自然資源等を活かしながら、維持管理面にも配慮した身近な公園等を創出していくことが必要である。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	1	◎公園等について、「袋井市緑の基本計画」等を基に計画的に整備が進められている。 ◎公園施設の老朽化対策については、長寿命化計画に基づき、現在計画に入っていない公園も含め計画を見直し、計画的に維持更新を行っていく必要がある。
評価結果の平均値	2.0	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果			
		有効性	効率性	廃止の影響	
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり	
1	公園愛護活動事業	3	3	4	
2	公園維持管理事業	3	3	4	
3	公園施設長寿命化事業	3	3	3	
4	公園芝生・樹木等管理委託事業	3	3	3	
5	愛野公園施設維持管理事業(指定管理)	3	3	3	
6	月見の里公園施設維持管理事業(指定管理)	3	3	3	
7	(仮称)三川公園整備事業	3	3	3	
8	(仮称)春岡多目的広場整備事業	3	2	2	
9	報徳の里 ふかみ野草ガーデン整備事業	3	3	3	
10	みつかわ夢の丘公園整備事業(公園部)	4	4	4	
11	花工場運営事業	3	3	3	
12	花咲くふくろい推進事業	3	2	3	
13	花壇維持管理事業	3	3	3	
14	JR袋井駅・愛野駅前花壇等管理委託事業	3	3	3	
15	街路樹愛護報償金事業	3	3	3	
16	街路樹管理委託事業	3	3	3	
17	生垣づくり補助事業	3	3	3	
18	河川・海岸愛護事業	3	3	3	
19					
20					
評価結果の平均値		3.0	3.1	2.9	3.1

取組の総合評価と今後の展開方向

取組の評価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.5	2.0	3.0	2.5

4～3.6:順調 3.5～3:概ね順調 2.9～2:一部に改善を要する 1.9～1:全体的に改善を要する

◎公園等の一人当たりの面積は、国の基準以上で県内トップクラスであり、河川愛護協定締結団体数も目標を達成しているが、公園愛護団体数や花いっぱいコンクール参加件数は目標を達成していない。 ◎公園等の整備は必要性や緊急性は低いが、身近に公園等がない地域には、自然資源等を活かした憩い空間の創出が求められる。また、公園や花壇等の維持管理は将来にわたり必要なため、引き続き市民等との協働により推進していく必要がある。		H26の評価	一部に改善を要する
番号	取組の基本方針	H26	今後の展開方向
1	公園愛護活動の促進	→	地域住民による公園愛護は、身近な生活環境の向上や維持管理コストの縮減にも有効であるため、引き続き地元自治会等に協力をいただく。自治会や団体等のメンバーの高齢化等による活動規模の縮小や解散等が懸念されるため、愛護活動を持続していく方法を研究する必要がある。
2	特性を活かしたうるおい空間の整備	→	本市特有の農の資源、川や里山などの自然資源や地域固有の歴史や文化を活かした憩いの空間(小さな公共空間)の創出を検討していく。
3	身近に利活用できる公園の整備	→	袋井市緑の基本計画により、公園等の整備を計画的に進めるとともに、親しまれる施設となるよう住民等の意見を取り入れて整備していく必要がある。また、整備にあたっては将来的な維持管理にも配慮する必要がある。
4	花と緑のまちづくりの推進	→	市民や地域との協働による花工場運営や愛野メモリアルロードの花の植え替え、また、企業や個人の敷地内緑化の推奨などにより、花や緑にあふれるまちづくりを継続して進めていく。

<< 展開方向 >> 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成26年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組6	快適な都市空間の創出
取組の目的	地域に愛着と誇りを持てる景観づくりと良好な住宅環境の整備を推進し、質の高い快適な生活空間を創出します。

取組に係る社会の動向・本市の現状(主な取組)

社会の動向	<p>◎平成25年6月に富士山が世界文化遺産に登録され、自然資源や地域資源に関する環境保全、景観保護の関心が高まっている。</p> <p>◎街の中心に都市機能を集めるコンパクトシティの実現を目指す改正都市再生特別措置法が平成26年5月に成立した。</p> <p>◎様々な分野へのICT(情報通信技術)の積極的な活用により、多種多様な市民ニーズに応えるまちづくりが期待されている。</p>
主な取組	<p>◎平成26年4月に眺望地点(14箇所)や景観重要樹木の指定候補(2箇所)を選定するなど、景観計画に基づき、自然、歴史や文化を基盤とした個性豊かなまちの景観の創出を図っている。</p> <p>◎平成26年11月に供用を開始した袋井駅南北自由通路・橋上駅舎等とあわせて、袋井駅南地区のまちづくりを推進するため、地域住民と袋井駅南都市拠点土地区画整理組合の設立準備や地区計画の制定等を実施した。</p>

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の評価点
1	景観重要建造物等指定箇所数【箇所】	目標値	0	10	11	12	12	4
		実績値	0	0	0	14		
2	土地区画整理事業の実施面積【㎡】	目標値	376.3	383.1	383.1	391.9	396.2	2
		実績値	376.3	383.4	383.4	383.4		
3	地区計画や建築協定により景観形成が図られた地区数【箇所】	目標値	20	20	20	22	23	2
		実績値	20	20	20	21		
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
<p>【評価点基準】</p> <p>4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている</p> <p>3: 目標は達成しているが、前年より落ちている</p> <p>2: 目標は達成していないが、前年より伸びている</p> <p>1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている</p>								<p>評価結果の平均点</p> <p>2.7</p>

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H26	備考欄
<p>有効性</p> <p>4. 想定どおりの成果</p> <p>3. 概ね想定どおりの成果</p> <p>2. 一定の成果</p> <p>1. 想定した成果なし</p>	3	<p>◎良好な市街地を形成するため、景観計画や地区計画などのソフト手法や土地区画整理事業などハード手法を組み合わせることで事業推進していくことが効率的かつ効果的である。</p> <p>◎ICTの活用により、市民生活や企業活動、行政サービスの向上が期待されている。袋井市ICT推進計画の見直しにより、各分野へのさらなるICTの活用を推進していくことは有効である。</p>
<p>必要性</p> <p>4. 極めて高まっている</p> <p>3. 高まっている</p> <p>2. 一定程度高まっている</p> <p>1. 高まっていない</p>	3	<p>◎景観形成の推進について、平成25年に富士山が世界文化遺産に登録され、景観保護や環境保全への関心が高まっている。本市の「農の風景」、山や川などの自然、歴史や文化的資源を保全するとともに、より魅力的な景観を創出していく必要がある。</p> <p>◎人口減少、少子高齢化時代において、まちづくりの根幹となる土地利用について、本市の将来を見据え、より良いあり方を検討していく必要がある。</p>
<p>緊急性</p> <p>4. 極めて高まっている</p> <p>3. 高まっている</p> <p>2. 一定程度高まっている</p> <p>1. 高まっていない</p>	3	<p>◎「農の風景」や自然等の景観は、市民に潤いを与える大切な財産である。みんなで時間を掛けて、良質な景観を形成していく必要がある。</p> <p>◎駅南地区のまちづくりについて、袋井駅南北自由通路・橋上駅舎が平成26年11月に供用開始されたことから、袋井駅南都市拠点土地区画整理事業などの事業化に向けて、地域とともに推進していく必要がある。</p>
<p>評価結果の平均値</p>	3.0	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果			
		有効性	効率性	廃止の影響	
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり	
1	景観形成推進事業	4	4	4	
2	屋外広告物適正化事業	3	3	3	
3	災害に強いまちづくり事業	3	3	4	
4	計画策定事業(国土利用計画、都市計画マスタープラン等)	3	3	4	
5	都市計画決定関連事業	3	3	4	
6	地域まちづくり支援事業	4	4	4	
7	袋井駅南地区まちづくり事業	4	4	4	
8	袋井駅前第二地区土地区画整理事業	3	3	4	
9	上山梨第三土地区画整理事業	3	3	4	
10	袋井駅南都市拠点土地区画整理事業	3	3	4	
11	(仮称)袋井市上山梨地区沿道整備土地区画整理事業	4	4	4	
12	土地利用適正化事業	4	4	4	
13	ICT街づくり推進事業	3	3	3	
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価結果の平均値		3.5	3.4	3.4	3.8

取組の総合評価と今後の展開方向

取組の評価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.7	3.0	3.5	3.1

4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

<p>◎土地区画整理事業の実施面積や地区計画等による景観形成が図られた地区数は目標を達成していないが、景観重要建造物等指定箇所数は目標を達成し、概ね計画どおり推進されている。</p> <p>◎袋井駅南北自由通路・橋上駅舎や南口駅前広場等が平成26年11月に供用開始されたことから、土地区画整理事業の推進や民間土地利用の促進を早期に推進していくことが求められている。</p> <p>◎ICTについては、多様な分野への積極的な活用を図るため、袋井市ICT推進計画のPDCA(進捗管理)等)を行っていく必要がある。</p>	H26の評価	概ね順調
--	--------	------

番号	取組の基本方針	H26	今後の展開方向
1	良質な景観形成の推進	→	景観重要建造物(樹木)の指定に向けて手続き等を進めるとともに、歴史文化の景観を生かした特定地区や道路附帯施設等の景観形成に向けた検討を行う。また、景観形成ガイドプランの進捗状況を踏まえて、今後の取組内容を検討していく。
2	密集市街地への対策	→	袋井駅南地区の既存市街地は、袋井駅南都市拠点土地区画整理事業により改善を図るとともに、袋井市都市防災基本計画の策定により、災害危険度の高い密集市街地等の対策を検討していく。
3	計画的な市街地の形成	↑	上山梨第三土地区画整理事業は平成29年度の事業完了に向けて換地計画の策定等を推進する。袋井駅南地区は、土地区画整理事業の推進や民間土地利用の促進、自転車歩行者道の整備等を推進する。また、国土利用計画第2次袋井市計画を踏まえて、都市計画マスタープランの見直しを行っていく。
4	ICTインフラ整備の促進	→	平成25年度に見直した袋井市ICT推進計画に基づき、各分野の取組を推進し、市民サービスの充実や効率化等を行っていく。また、小学校など公共施設にWi-Fiスポットの整備等を推進していく。

◀ 展開方向 ▶ 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成26年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組7	交通基盤の充実
取組の目的	安全で円滑な道路網の整備と公共交通の確保を図り、だれもが快適に移動できる利便性の高い交通ネットワークを構築します。

取組に係る社会の動向・本市の現状(主な取組)

社会の動向	<p>◎道路については、今後、急激に増加する更新費用や維持管理費を見据え、計画的な整備を行っていく必要がある。</p> <p>◎少子高齢化や自家用車の普及等により民間路線バスの利用者数が減少傾向にあり、民間路線バスや自主運行バスの1人当たりのバス運行経費が増加していることが課題となっている。学生や高齢者などの交通弱者の移動手段を確保する必要があることから、様々な交通手段を組み合わせ、利用しやすい公共交通網を構築することが求められている。</p>
主な取組	<p>◎袋井駅南北自由通路・橋上駅舎が完成し、駅南方面からのアクセス性、高齢者や障がいのある人などの利便性が向上した。</p> <p>◎道路の安全を確保するため、計画的に安全点検を実施するとともに、橋梁長寿命化修繕計画(平成25年3月策定)に加え、舗装長寿命化計画(平成27年度策定予定)に基づき維持管理・修繕コストの縮減を図っている。</p> <p>◎交通弱者の移動手段確保のため、民間路線バスの維持をはじめ、自主運行バス等の組み合わせによる効果的な公共交通網の構築に取り組んでいる。</p>

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の評価点
1	要舗装修繕箇所の整備率【%】	目標値	43.3	52.9	62.5	72.1	88.0	2
		実績値	36.8	41.1	48.5	53.7		
2	「事業化準備制度」の事業実施数【事業】 (幹線道路・生活道路)	目標値	24	27	29	31	32	4
		実績値	24	33	44	48		
3	道路整備10箇年計画道路の整備率【%】	目標値	50.2	50.5	50.7	51.2	51.9	2
		実績値	50.3	50.5	50.7	50.9		
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
<p>【評価点基準】</p> <p>4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている</p> <p>3: 目標は達成しているが、前年より落ちている</p> <p>2: 目標は達成していないが、前年より伸びている</p> <p>1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている</p>								<p>評価結果の平均点</p> <p>2.7</p>

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H26	備考欄
<p>有効性</p> <p>4. 想定どおりの成果</p> <p>3. 概ね想定どおりの成果</p> <p>2. 一定の成果</p> <p>1. 想定した成果なし</p>	3	<p>◎袋井駅南北自由通路の新設及び橋上駅舎化を機に駅南側の都市的土地利用を促進させることは、本市の中心核の拠点性を高め、魅力ある都市拠点の形成に資するものである。</p> <p>◎全国的に公共施設やインフラの維持管理費の増大や更新時期の集中が懸念されており、事後保全から予防保全型管理への転換により、安全性の向上と施設の長寿命化、維持管理・更新コストの縮減を図る長寿命化計画が非常に有効である。</p>
<p>必要性</p> <p>4. 極めて高まっている</p> <p>3. 高まっている</p> <p>2. 一定程度高まっている</p> <p>1. 高まっていない</p>	4	<p>◎袋井駅南北自由通路及び橋上駅舎の供用開始を機に、駅を中心とした地域の活性化を図り、中東遠の中軸都市にふさわしい魅力ある都市拠点を形成していく必要がある。</p> <p>◎橋梁など道路施設の老朽化や更新時期の集中が見込まれているため、橋梁長寿命化修繕計画等により、限られた財源を効率的に使い、安全管理を適正に行っていく必要がある。</p> <p>◎人口減少を見据えたまちづくりや環境に優しいまちづくりを進めるため、自動車だけでなく、徒歩、自転車、公共交通を組み合わせた快適な都市環境を構築していく必要がある。</p>
<p>緊急性</p> <p>4. 極めて高まっている</p> <p>3. 高まっている</p> <p>2. 一定程度高まっている</p> <p>1. 高まっていない</p>	2	<p>◎袋井駅南北自由通路及び橋上駅舎、駅南側アクセス道路の供用開始を機に、袋井駅南都市拠点土地区画整理事業などにより土地利用を促進していく。</p> <p>◎「みつかわ夢の丘公園」(市営墓地)のアクセス道路、自動車・自転車等の交通量が多く安全性の低い道路、密集市街地等の防災・安全面の改善が必要になる道路について、引き続き整備していく必要がある。</p>
<p>評価結果の平均値</p>	3.0	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果			
		有効性	効率性	廃止の影響	
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり	
1	(都)袋井駅南北自由通路新設事業及び橋上駅舎化事業	4	4	4	
2	(都)南口駅前線(駅広)改築事業	3	3	4	
3	道路橋梁維持管理事業(道路保安施設)	3	3	3	
4	道路舗装補修事業	3	3	3	
5	橋梁の長寿命化修繕事業	4	3	4	
6	広域幹線道路整備促進事業	3	3	3	
7	(都)上久能山科上線(第二工区)改築事業	3	3	4	
8	(都)袋井駅森線改築事業	4	4	4	
9	(都)山梨中央通り線改築事業	4	4	4	
10	(仮称)袋井市上山梨地区沿道整備土地区画整理事業	4	4	4	
11	(都)下山梨上町春岡線新設事業	4	4	4	
12	(都)諸井山の手線改築事業	3	3	3	
13	市道東同笠油山線改築事業	4	3	4	
14	市道湊中新田線改築事業	4	3	4	
15	市道湊川井線(諸井橋)改築事業	4	3	4	
16	市道太郎兵衛新道国本線改築事業	4	3	4	
17	市道大谷幕ヶ谷線改築事業	4	2	4	
18	市道小野田田原線改築事業	4	3	3	
19	協働によるみちづくり事業	4	4	4	
20	3級市道整備事業	4	3	4	
21	「クリーンセンター等関連」3級市道整備事業	4	3	4	
22	「サンサーらいごおか関連」3級市道整備事業	3	3	4	
23	生活バス路線確保対策事業	4	4	4	
24	天竜浜名湖鉄道運営支援事業	3	3	3	
25	自主運行バス運行事業	2	3	4	
評価結果の平均値		3.5	3.6	3.2	3.8

取組の総合評価と今後の展開方向

取組の評価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.7	3.0	3.5	3.1

4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

◎袋井駅南北自由通路及び橋上駅舎の供用開始に合わせ、駅南側アクセス道路も供用開始することができた。その後は、駅南側の都市的土地利用を促進させるため、袋井駅南都市拠点土地区画整理事業などの土地利用を促進している。 ◎要舗装修繕箇所の整備率や道路整備10箇年計画道路の整備率は、いずれも目標は達成していないが、計画的に事業を進めている。 ◎道路の維持管理、更新対策については、橋梁長寿命化計画等に基づき、適正な安全管理と維持管理・修繕コストの縮減に努めている。	H26の評価	概ね順調
--	--------	------

番号	取組の基本方針	H26	
1	JR袋井駅舎及び周辺地区の整備	↗	袋井駅南北自由通路及び橋上駅舎の供用開始を機に、土地区画整理事業など駅を中心とした地域の活性化を図り、中東遠の中軸都市にふさわしい魅力ある都市拠点を形成していく。
2	計画的な道路補修による長寿命化	↗	橋梁長寿命化修繕計画等により、橋梁など道路施設の適正な安全管理と維持管理・修繕コストの縮減を図っていく。また、舗装についても、長寿命化計画の策定に取り組んでいく。
3	幹線道路及び生活道路の計画的な整備	→	道路ネットワークの形成に向けて、幹線道路の整備を効率的にすすめるとともに、生活道路について協働によるみちづくり事業をもとに、地域住民との協働により道路整備を計画していく。
4	利便性の高い公共交通の実現	→	自主運行バスについて、利用状況を確認し、必要に応じて運行の見直しを検討していた。また、全国的に人口減少、高齢化を迎えた中で、地域の状況に合わせた最適な運行形態の組み合わせを検討していく。

<< 展開方向 >> 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘

取組別評価シート(平成26年度実績)

政策3	みんなで取り組む快適なまちづくり
取組8	安全な水の安定供給
取組の目的	水道施設の管理を適正かつ計画的に行い、安全な水道水を安定的に供給します。

取組に係る社会の動向・本市の現状(主な取組)

社会の動向	<ul style="list-style-type: none"> ◎事業所や家庭における節水意識の高まりに加え、節水器具等の普及が進むとともに、事業所での生産体制の縮小などにより、有収水量が伸び悩み、計画通りの料金収入が見込めない傾向にある。 ◎老朽化した管路の更新や、東日本大震災を踏まえた施設の耐震化対策など、水道事業の経営は非常に厳しい事業環境の変化に直面している。
主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ◎料金収入が伸び悩む中、将来を見据えた効果的な管路の更新と水道事業の効率的な経営を図るため、水道料金等懇話会からの提言を踏まえ、経営改善に向けた取組を進めている。 ◎基幹管路(送水管・導水管・大口径配水管)の耐震化に加え、長寿命化について長期的な視点で計画的に取り組んでいく。

取組指標の分析と評価結果【A】

番号	指標名	項目	H23	H24	H25	H26	H27	H26の評価点
1	基幹管路耐震化率【%】	目標値	27.9	29.3	30.8	32.2	33.7	4
		実績値	28.5	29.4	35.3	36.4		
2	有収率【%】	目標値	90.2	90.4	90.6	90.8	91.0	2
		実績値	90.1	90.2	90.2	90.3		
3	営業収支比率【%】	目標値	108.1	108.1	108.6	109.3	110.0	1
		実績値	104.4	105.0	106.0	102.7		
4		目標値						
		実績値						
5		目標値						
		実績値						
【評価点基準】 4: 目標を達成し、さらに前年よりも伸びている 3: 目標は達成しているが、前年より落ちている 2: 目標は達成していないが、前年より伸びている 1: 目標に届かず、かつ前年より落ちている								評価結果の平均点 2.3

『取組』の有効性・必要性・緊急性の評価結果【B】

評価項目	H26	備考欄
有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	3	◎節水意識の向上や節水器具の普及による水需要の減少に加え、地方公営企業会計制度改正に伴うみなし償却制度の廃止による減価償却費の増加などにより、営業収支比率が低下している。 ◎水道管の更新による有収率の向上に加え、配水システムの再編による効率的なインフラ管理・整備を進めることで、経営の安定に繋がる。 ◎毎年、計画的に老朽管の更新を図ることに加え、基幹管路において耐震化を進めることで、大規模地震に備えた生活インフラの構築も推進され、有効な事業実施である。
必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	◎水道は市民生活における重要なライフラインであり、安全な水を安定的に供給するためにも、老朽管の更新・耐震化や施設の耐震化などを進めていく必要性は極めて高い。 ◎安全な水を安定的に供給するため、老朽管の更新や施設の耐震化を着実に進める必要がある。
緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	2	◎静岡県第4次地震被害想定の内容などからも、大規模地震に対応したBCPの観点で、施設整備を進めていくことが求められる。 ◎平成26年3月に策定した老朽管更新(耐震化)第2次計画に沿って、計画的に老朽管更新を進めていく。
評価結果の平均値	3.0	

この取組実現のための主な事業の評価結果【C】

No.	事務事業名	事業評価表の評価結果		
		有効性	効率性	廃止の影響
		4. 極めて有効 3. 有効 2. 一部有効でない 1. 有効でない	4. 極めて効率的 3. 効率的 2. 一部効率的でない 1. 効率的でない	4. 極めて影響あり 3. 影響あり 2. どちらでもない 1. なし又は代替手法あり
1	基幹管路耐震化事業	4	4	4
2	緊急時対応システム整備事業	4	4	4
3	老朽管更新事業	4	4	4
4	配水系統再編事業	4	4	4
5	小口径老朽管更新事業	4	4	4
6	下水道事業に伴う配水管布設替事業	3	3	3
7	土地区画整理地内配水管布設事業	3	3	3
8	国・県・市道整備関連配水管布設事業	2	2	2
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
評価結果の平均値		3.5	3.5	3.5

取組の総合評価と今後の展開方向

取組の評価			
取組指標の評価結果【A】	有効性等の評価結果【B】	主要事業の評価結果【C】	各評価結果の平均値
2.3	3.0	3.5	2.9

4～3.6：順調 3.5～3：概ね順調 2.9～2：一部に改善を要する 1.9～1：全体的に改善を要する

◎毎年、計画的に老朽管の更新を図ることに加え、基幹管路において耐震化を進めることで、大規模地震に備えた生活インフラの構築を推進している。 ◎水道は市民生活における重要なライフラインであり、将来にわたって安全な水を安定的に供給するため、長期的な経営健全化を目指し、経営の効率化に取り組んでいく。		H26の評価	一部に改善を要する
番号	取組の基本方針	H26	
1	水道水の安定供給の確保	↗	東日本大震災の教訓を活かし、基幹管路や基幹施設の耐震化などに取り組むことはもとより、長寿命化にも目を向け、災害に強く、将来にわたり安定供給ができるライフラインを目指す必要がある。
2	水道水の安全性の確保	→	安全性確保のため、水質検査計画に基づいた水質検査を、引き続き厳格に実施していく。(現在は、業者による毎月の水質検査と職員による毎日の水質検査が行われており、これらを引き続き実施していく。)
3	水道事業の健全経営の確保	↗	効率的な配水系統を再編することや、基幹管路などの耐震化に加え、長寿命化にも目を向けながら、将来にわたり安定した事業経営を図ることが求められる。「水道料金等懇話会」の意見を反映し、安全な水道水の安定的供給のための経営を実現させていく。

◀ 展開方向 ▶ 拡充(順調) ↑ 拡充(改善必要) ↗ 継続推進 → 縮小 ↘